

# 多様な「いのち」の 営みを支える「知床



根室海峡国後島とマッコウクジラ  
(撮影者：石井輝章)



新たに設置された高架木道 (写真提供：環境省)

知床は北海道の東部に位置し、その中央部には火山活動などによって形成された急峻な山々が約70kmにもわたって連なり、切り立った海岸断崖、湿原・湖沼群という原生的で貴重な自然が残されている、オホーツク海に突き出た半島です。

ここでは、北方系と南方系の動植物が混生し、327種の動物・鳥類、265種の魚類、817種の植物が生息・生育しており、これらの中には、シレットコスミレやシマフクロウなどの絶滅危惧種も含まれています。

また、知床とその周辺の海域は、北半球における流氷の南限域であり、流氷がもたらす栄養分によって大量に増殖するアイス・アルジー（氷に付着した藻類）などの植物プランクトンは食物連鎖の出発点になっています。

この植物プランクトンを海中の動物プランクトンが食べ、動物プランクトンを海と川を行き来するサケ類が食べ、このサケ類をヒグマなどの大型ほ乳類や、オオワシなどの猛禽類、アザラシなどの海棲ほ乳類等が餌とするという、海域と陸域の密接な関わり合いが、豊かな生態系を形成しています。

これらのような、「陸・海・川」が一体となった生態系や、希少種を含む多くの種にとって重要な地域の生物多様性が、世界において類を見ない地域として評価され、平成17年7月にユネスコ世界自然遺産に登録されました。

こうして、世界の宝ものとなった知床は、未来の子ども達に今のままの自然を引き継いで行くための保全対策と併せて、エコツーリズムなど適正な利用についても、検討・取り組みが進められています。

2010年5月には、知床五湖において一湖まで車いすで

も安全で自由に散策できる高架木道（全長800m）が設置されました。木道の終点にある湖畔展望台からは、知床連山やオホーツク海などの素晴らしい眺望が楽しめるほか、野鳥やエゾシカなどの姿も見るすることができます。

他にも、カムイワッカ湯の滝、フレベの滝、羅臼湖など大自然を目の当たりにできる景観や、ホエールウォッチング、流氷ウォーク…などなどのアクティビティ、そして大自然を堪能した後は、温泉で体を癒やし、新鮮な海の幸・山の幸に舌鼓。楽しみ方の例を挙げるとキリがありません。

今年7月、知床は世界自然遺産登録5周年を迎えました。これまでも、そして、これからも変わらぬ本物の自然を地元の皆さんと行政が一体となって保全と利用に取り組んで行きます。

五感で「知床」を味わいに、是非いらしてください。

(協力：北海道環境生活部環境局自然環境課知床遺産グループ)

